



ご家族・お友達をお誘いのうえ お気軽にご来館ください!

## 夏休み図書館子ども探検隊

図書館の仕事を体験してみましょう!



実施日 7月 27日(火)・28日(水)・29日(木)

8月 3日(火)・5日(木)・10日(火)・11日(水)・12日(木)・17日(火)・18日(水)・19日(木)

時間 9:00~12:00

内容 ブックポストの整理・書架整理・貸出・返却処理 資料の検索等

対象 市内在住の小学4年生から6年生

申込み はがき(7/14(水)消印有効)または、3階視聴覚コーナーへ直接申込み(7/14(水)まで)

## 子ども電気教室

7月28日(水)10:30~12:00

場所 4階視聴覚ホール

講師 東京電力(株)三島支店営業グループ 土屋 英樹 氏

内容 「電気博士になろう!~電気はどうやってできるの?どうやって送られてくるの?~」

対象 小学生 定員100人(保護者同伴可)

申込み 7月8日(木)9:30~電話にて受付



## 夏休みわくわく図書館

8月5日午前の部10:00~12:00

午後の部13:00~14:30

場所 4階講座室・視聴覚ホール

当日直接会場へ

内容 人形劇・お話の部屋・工作の部屋・展示の部屋

## ビデオ(DVD)上映会

場所 4階視聴覚ホール・定員200人

●子供向け 14:00~

7/27(火)『くまのがっこう・ぱんつもいいな』他50分

8/3(火)『三ねん寝太郎』43分

8/10(火)『かんからさんしん』78分

●大人向け 14:30~/18:30~(2回上映)

7/23(金)『私の頭の中の消しゴム』117分

7/30(金)『ナビゲーター ある鉄道員の物語』96分

8/6(金)『紙屋悦子の青春』111分

## 夏休み企画展

7月24日(土)~8月22日(日)

場所 4階展示ホール

協力 ぬまづ子どもの本を学ぶ会

内容 「この本よんでもらったよ」

幼稚園・学校・地域で子どもたちに読んでいる本の展示

◎広報ぬまづ・館内ポスター・チラシ等もあわせてご覧ください

## ☆図書館カレンダー☆

平成22年 7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

平成22年 8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

平成22年 9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■...休館日

開館時間

火・水・木 .....

午前9時30分~午後6時30分

金 .....

午前9時30分~午後9時

土・日・祝日・振替休日 ...

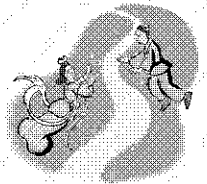
午前9時30分~午後5時

# みなさんの調べもののお手伝いをします

「調べたいことがあるけど、どの本を見たらよいかよく分からない」という方もいるのではないのでしょうか？図書館では、本の貸出・返却だけでなくレファレンスサービスといって、みなさんの調べもののお手伝いをしています。利用者から寄せられた質問に、図書館にある資料でお答えもしています。一例として、今回は七夕(たなばた)について調べてみました。

## 七夕とは・・

七夕とは、五節句、(1月7日・3月3日・5月5日・7月7日・9月9日)のひとつで、天の川に隔てられた牽牛星(けんぎゅうぼし)と織女星(しょくじょせい)が、年に1度、この日の夜だけに逢えるという伝説にちなんで、この二星をまつります。庭先に笹竹を立て、短冊に和歌や願い事を書いて飾る、もとは旧暦7月7日の行事です。



## 七夕の由来は・・

先に紹介した伝説と、手芸や芸能の上達を祈願する中国の習俗「乞巧(きこう)でん」が結び付けられ、日本固有の行事になったといわれています。また、棚端女(たなばたつめ)という女性が、豊作をもたらす神の衣を織る日本古来の行事がもとになって、この棚端女から七夕を「たなばた」と読むようになったといわれています。

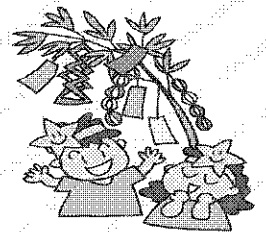
この行事は、奈良時代から宮中儀式としておこなわれるようになり、やがて、民間にも広まっていたといわれています。

## 笹飾りは何のため・・

昔から、日本では竹を神聖なものとしてきました。現在でも、神社の神事には笹竹をよく使います。

もともと七夕は、6日の夜に神様を迎えるお祭りをし、7日の朝に水浴びをすることでけがれを持ちさつてもらおうという、お盆前の禊払(みそぎばらい)の意味がありました。

現代のような笹竹に短冊をつけて手習いごとの上達を祈る習慣は、寺子屋が広まった江戸時代からはじまりました。笹飾りにはいろいろあり、青・赤・黄・白・黒の5色の短冊の他、吹流し・千羽鶴・網飾り・着物などを飾りつけたりします。



この他の行事の由来について調べてみるのも楽しいかもしれませんね。

## ※参考文献

- 『今日は何の日？年中行事・記念日辞典』 学習研究社
- 『日本の行事を楽しむ12ヶ月 暮らしの歳時記』 主婦の友社
- 『親子で楽しむ365日暮らしの行事』 大泉書店
- 『家族で楽しむ歳時記・にほんの行事』 池田書店

みなさんも、わからないことがあったら、カウンターまで気軽に声をかけてください。

# おはなしフェスティバル

## たくさんのご参加、ありがとうございます



おはなしフェスティバルが今年も6月12日(土)に開催されました。

今回の工作では「プロペラ」と「カッパのパクパク」を作りました。新聞のチラシなどで簡単にできます。詳しい作り方は『ゆびあそびシリーズ⑤チラシであそぶ』(星の環会)をごらんください。



じょうずに作れるかな？



手遊びで、もりあがりました！

また、おはなしの会のボランティアグループのみなさんが、今回も楽しいプログラムを用意してくださいました。

おはなしふくろう さん  
☆ナガナガくん (OHP)



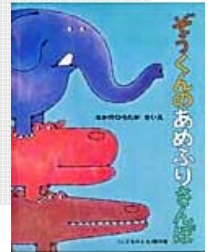
ラディッシュ さん  
☆ダンゴムシみつけたよ  
(スライドショー)  
☆まほうのコップ(OHP)



グループあおむし さん  
☆ももたろう(OHP)  
☆わんわんくのはだあれ(OHP)



アンの部屋 さん  
☆ぞうくんのあめふりさんぽ  
(紙人形劇)



児童室では毎週土曜日と第3日曜日の午後2時からボランティアグループのみなさんが「おはなしの会」を開催しています。小さなお子さんはもちろんのこと、どなたでもお聴きいただけます。

経験豊かなボランティアのみなさんのおはなしを是非、「おはなしの会」でお楽しみください。

～◎

## 絵本の並べ方が変わりました

昨年度、絵本を並べかえる作業をはじめ、児童室の絵本は絵を描いた人の名前前の五十音順になりました。今年度は2階の団体貸出用の絵本のラベルと並べ方を変更中です。そのため、変更作業が終了するまでは、児童室と2階に同じ絵本がある場合、同じ本なのにラベルの表記が異なりますが、ご理解のほど、よろしくお願いたします。

# 沼津御用邸 花だより 夏の巻

沼津御用邸記念公園は駿河湾沿いに位置し、周りを松林に囲まれています。苑内には様々な花が四季折々咲きますが、今回はその中から夏の花と、その花が詠み込まれた歌や句などを紹介いたします。



## 紫陽花(アジサイ)

アジサイ科 6月上旬～下旬

梅雨の時期を代表する花。高さは1～2メートルで、紫(赤紫から青紫)や白い花を咲かせます。花の色は土壌の酸性度や開花日数によって変化します。

御用邸にはガクアジサイ・ヤマアジサイ・セイヨウアジサイ・カシワバアジサイ等が約2,300株植えられています。

あかねさす <sup>ひる</sup> 昼はこちたし <sup>あ</sup> <sup>な</sup> <sup>み</sup> <sup>ひと</sup> あじさるの 花のよひらに 逢い見てしがな よみ入しらず



## 浜木綿(ハマユウ)

ヒガンバナ科 7月上旬～下旬

関東南部より西、暖かい地方の海岸砂地に生える多年草。高さ1メートル前後、白くて芳香のある花をつけます。苑内に点在するほか、戸田の御浜岬公園にも多く咲いています。別名「浜万年青(はまおもと)」「浜百合」「浜芭蕉」等。

沼津市の花に指定されています。

くまの <sup>うら</sup> <sup>はま</sup> <sup>ゆう</sup> <sup>もも</sup> <sup>え</sup> <sup>ただ</sup> <sup>かき</sup> <sup>の</sup> <sup>もの</sup> <sup>の</sup> <sup>ひと</sup> <sup>まる</sup> み熊野の 浦の浜木綿 百重なす 心は思へど 直に逢はぬかも 柿本人麻呂



## 向日葵(ヒマワリ)

キク科 7月中旬～8月中旬

茎は直立して高さ2メートル程になり、大きな頭花(とうか)をつけます。英語の「サンフラワー」をはじめ、他の言語でも太陽にちなんだ名がつけられており、別名「日輪草(にちりんそう)」「日向葵(ひゅうがあおい)」「火車(ひぐるま)」などと呼ばれています。

西附属邸の西側、海岸近くの苑地に群生しています。

ひまわり <sup>きん</sup> <sup>あぶら</sup> <sup>たか</sup> <sup>ひ</sup> <sup>まえ</sup> <sup>だ</sup> <sup>ゆう</sup> <sup>ぐれ</sup> 向日葵は 金の油を 身にあびて ゆらりと高し 日のちひささよ 前田夕暮

### 【参考文献】

『花歳時記大百科』(北隆館) <sup>ほくりゆうかん</sup> / 『古今・新古今集の花』(国際情報社) ほか